【普通科】　２年次　【必修・選択】科目「書道Ⅱ」授業のシラバス

１　概要

教科名	芸術	**科目名**	書道Ⅱ	**単位数（コマ数）**	２（１１７）
科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
教科書（出版社）	新編　書道Ⅱ　（教育出版）			**副教材（出版社）**	

２　学習の方法

⑴　予習について

基本的に必要ありませんが、創作の作品を制作する際に、あらかじめ素材（詩や俳句、歌詞など）を準備するように指示することがあります。

⑵　授業について

筆や墨、紙など、作品制作に必要な道具は、すべて書道教室に置いておくことを認めます。筆記用具を忘れずに持参してください。服装については通常は制服着用で行います。ただし、夏季略装期間においてはジャージの上を着用することを認めます。（着脱は書道教室で行う。）

授業では基本的に毎時間、作品制作を行います。作品制作は、大きく臨書と創作に分類されます。臨書とは、一般に評価の定まった古典を習うことを言います。創作とは自分で題材を選び、用具や用材、全体構成を工夫して、作品制作することを言います。また作品制作の前後に鑑賞を行います。

⑶　復習について

特に必要ありません。授業の最初に前の時間に学習した内容を復習します。

〈学習アドバイス〉

中学校の「国語科書写」では、文字を正しく整えて速く書くことをとおして、社会生活に生かすことを学習してきました。高等学校の「芸術科書道」では、これをふまえて古典の学習をとおして、いろいろな美しさを味わい、筆、墨、紙などの用具・用材の特性を生かしながら創造的な自己表現を求めていきます。

書の表現は多様です。まずは、古典のよさや美しさを味わい、臨書によって技法や表現原理を学びましょう。そして、自分が表現しようとする制作の意図に応じて、用具・用材や運筆を工夫し、書をとおして自己表現しましょう。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　書への関心・意欲・態度	・さまざまな書の美に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的学習に取り組もうとしている。
②　書表現の構成と工夫	・古典の特徴を捉え、習得した技法を自身の表現活動に生かしている。 ・感性を働かせながら、自らの意図に応じて構想し、表現を工夫している。
③　創造的な書表現の技能	・目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な書表現の技能を身につけている。
④　鑑賞の能力	・自身や他者の作品を客観的に観察し、その特質を的確にとらえ、自己の創作活動に生かすことができる。

⑵　評価の方法（以下観点①～④は「⑴　評価の観点」と対応する）

評価材料 / 観　点	割合	作品制作への取り組み	授業で制作した作品	授業プリント	グループワーク
①　書への関心・意欲・態度	２０%	◎		◎	○
②　書表現の構想と工夫	４０%		◎	○	○
③　創造的な書表現の技能	３０%		◎	○	○
④　鑑賞の能力	１０%	◎		◎	○

〈担当者からのメッセージ〉

定期考査は実施しません。授業での取り組み、提出された作品をもとに評価します。

作品制作が中心の授業になりますので、積極的に取り組むことが大切です。古典の臨書は、練習を重ねれば重ねるほど上達します。創作では、用具・用材、全体の構成を工夫することで様々な表現効果をもたらします。自分で題材を選び、作品のイメージを考え、表現を工夫してよりよい作品を探究しましょう。そして「自分にしか書けない作品」を目指しましょう。また、書の奥深い魅力を味わい、自己の表現の幅を広げるためには、鑑賞力を培うことが大切です。古典や仲間の作品の鑑賞をとおして、幅広い表現を味わい、自己の作品制作に生かしましょう。

授業で制作した作品や授業で使ったプリントはファイルに挟めて保管しますので、しっかり管理してください。また、作品鑑賞する際にはグループワークを行うことがあります。仲間の作品のよいところを見つけ、自分の作品制作に生かしましょう。

【普通科】　２年次　【必修・選択】科目「書道Ⅱ」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	(1)オリエンテーション (2)隷書の学習	1 16	○基本用筆 ・隷書の用筆 ・乙瑛碑 ・曹全碑 ・石門頌 ・木簡	① ② ③	・隷書に関心を持ち、様々な古典の書風と特徴を理解できた。 ・各古典の字形や用筆、線質などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫するこができた。 ・隷書の様々な書風を理解し、表現することができた。	・考査は実施しない ・毎時、プリントの提出あり
5 6	(3)作品制作（学校祭展示用	10	・学校祭で展示をする作品の制作	① ③ ④	・漢字仮名交じりの書の表現に関心を持ち、意欲的に取り組むことができた。 ・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身につけることができた。 ・他者の作品と自身の作品を比較し、自身の表現を向上させることができた。	
7 8	(4)楷書の学習	15	○均斉と均衡 ・皇甫誕碑の臨書 ・薦季直表の臨書 ○隷書の特徴を併せ持つ楷書 ・爨宝子碑の臨書	① ② ③	・古典の書美と表現技法に関心を持ち、意欲的に臨書や鑑賞に取り組むことができた。 ・各古典の字形や用筆、線質などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫するこができた。 ・楷書の運筆や筆法を習得し、線質や紙面の構成を工夫し、表現することができた。	
9	(5)篆書の学習	14	○独特の用筆と字形の特徴の把握 ・金文（召尊）の臨書 ・刻字（紙告示）	① ② ③	・篆刻・刻字に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。 ・篆書独特の筆法を生かした表現を工夫することができた。 ・刻字の用具・用材と手順を理解し、刻字の特性を生かした表現をすることができた。	
後期 10	(6)行書の学習	8	・集王聖教序の臨書 ・温泉銘の臨書 ・祭姪文稿を臨書	① ② ③	・行書に関心を持ち、各古典の書風と特徴を理解できた。 ・行書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫することができた。 ・線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身につけ、表すことができた。	
11 12	(7)草書の学習	8	○基本用筆 ・書譜の臨書 ・十七帖の臨書	① ② ③	・草書に関心を持ち、各古典の書風と特徴を理解できた。 ・各古典の字形や用筆、線質などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫するこができた。 ・線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身につけ、表すことができた。	
1 2	(8)漢字創作の学習	8	○古典の臨書や鑑賞を生かした創作活動 ・豊富な表現法を知る。	③ ④	・古典との共通点や相違点を把握したうえで、意欲的に取り組むことができた。 ・臨書で学んだ筆法や運筆、余白や全体の構成の表現を工夫することができた。	
1 2	(9)仮名の学習	25	・連綿や潤滑 ・全体構成の工夫 ・仮名の創作 ・百人一首の制作	① ③ ④	・他者の作品と自身の作品を比較し、自身の表現を向上させることができた。 ・仮名の書が、時代や文化と深く関わりながら変化してきたことを理解しようとしている。 ・線質や字形、連綿、墨色の変化、紙面構成などを理解し、書風を生かした表現を工夫している。 ・他者の作品の散らし方や墨色などの違いや感じたことを他者に伝えることができた。	
2 3	(１０)漢字仮名交じりの書	12 計 117	・筆法や構成 ・表現の拡大 ・作品鑑賞	① ③ ④	・漢字仮名交じりの書の表現に意欲的に取り組み、表現の構想から完成にいたるまでの充実感や達成感を味わうことができた。 ・感興や意図に応じた表現を構想し、工夫することができた。 ・他者の作品の散らし方や墨色などの違いや感じたことを他者に伝えることができた。	

※　観点別評価①は書への関心・意欲・態度、②は書表現の構想と工夫③は、創造的な書表現の技能、④は鑑賞の能力を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。